
WoRLd is BeqTiFuL ~ **世界は美しいことない**~

カツヒロシ!!

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

World is BeqTiFuL世界は美しくないことない
いゝ

【Nコード】

N0707C

【作者名】

カツヒロシ!!

【あらすじ】

山を登っていきます。そこで出会う三人の人物。そして僕は彼等を助けてあげるんだ。

（前書き）

この作品はフィクションです！ので、安心してまてください。
では、どーぞ

僕は山を登っている。

なんて名前の山かは、忘れちゃったんだよ。

でも、山を登っているんだ。

山を登り始めて、一時間くらいかな？

道の隅で、倒れている人を見つけたんだ。

山登りの決まりとして、知らない人でも困ってる人は助けること。
ってなわけで、話しかけた。

「大丈夫ですか？」

大柄な、巨漢だった、口のまわりは髭だらけ。

「ちょっと、足をくじいてしまつて・・・」

その人は、くるしそうに足を抑えてそう言った。

「怪我したんですか？応急処置の道具とか、包帯とか、もってない
んですか？」

「いや・・・それが・・・」

男の人は、はずかしそうに、かつくるしそうにこう言った。

「あるんですけど、自分の腹が邪魔くさくて見えないんです。手伝

って貰えませんか？」

ぼくは笑いそうになるのを堪えながら応急処置をしてあげた。

「はい。食べ過ぎはよくないですよ。」

「すみません。ありがとう。」

男の人は、それからゆっくり、山を下っていった。

それからさらに一時間くらい歩いてたら。

木の陰で蹲ってる女の子を見つけたんだ。

僕は声をかけた。

「どうしたの？」

女の子は泣いていた。

「彼氏にフラレたの・・・それで、自殺しようとして、首をつりにきたんだけど・・・」

そんな事で死ぬの？とか思ったけど、彼女にとっては深刻なんだろうから、真剣にはなした。

「かわいそうだね。でも、フラレたからって死んでもいいことないよ。お母さんやお父さんも今の君と同じくらい悲しむよ。それでも、しぬっていうの？」

彼女は、少し間をあけて、黙って頷いたんだ。

「しぬってことは、とっても苦しいし、怖いことなんだ。ホントにいいんだね」

「だって、

彼女は必死に言った。

父さんも母さんも、あたしに冷たい！家にいないし、仕事仕事って・
・・！！

・・・タカシだけだったのに！あたしのことわかってくれたの！！
あたし、裏切られたんだ！！もう、いいの。首をつって死にたい。
でも、一人じゃうまくいかないの。

お願い、手伝って！」

そして僕は頷いて、紐を一本木にくくりつけた。

「最後にもう一回だけきくよ。ホントに、死ぬの？」
彼女は死んだ顔で、少し微笑んで、ぼくにこういった。

「ありがとう、でもいいの。あなたみたいな人と一緒にいたら、
きっと、もっと長生きできたな。お願い、来世で逢えたら、私と一
緒になつて。」

頷いた僕を確認して、彼女は最後に、それじゃあ、といった。

彼女は一瞬、低くうめいて、静かになった。

ロープのミシミシ言う音だけが、いつまでも耳に残ったんだ。

辺りが雲に包まれてきた。

あれから30分くらい歩いたかな？

フラフラと歩いている男を見つけたんだ。

後ろから走って行って、声をかけた。

「フラフラですよ、大丈夫ですか？」

男はやつれていた。

「ああ、あなた。すいません、僕の話聞いてください。」

男はか細い声で、そういった。

「いいですよ、はなしてみてください。」

男は静かに話だしたんだ。

「僕には恋人がいました。幼いころから、ずっと一緒にいて、遊んでました。」

男はそこに座り込んで、僕もそこに座った。

「彼女の親は、ひどい人達でした。彼女の事を、ほとんど僕にまかせて、仕事ばかり。しまいには、一晚、どっちも帰ってこなくて、腹を空かせて泣いてた彼女を僕の家に来ていたこともありまして。」

「ほう、それはひどい。それで？」

「そうして、彼女と過ごす内に、この子を一生守ってあげたいって思っただんです。その気持ちを彼女に打ち明けたら、彼女はこういいました。”一生なんていわないで、永遠守ってください”。」

「いい話じゃないですか。それで？」

「僕らはそれから恋人同士になって、3年、幸せにくらしてました。ところが、僕のことを好きだったらしい別の女が、僕をこの山に連れてきて、僕の事を襲っただんです。逆レイプされたんです。しかもあの女、カナをここに呼び出して、その光景をカナにみられたんです。」

「ひどいやつもいたもんですね。で？」

「彼女はなきさけんで山を登っていきました・・・僕は絡み付くその女を殴ってすぐ後をおいました。でも・・・」

「でも？」

「みつかりませんでした。きっと彼女、しんでしまったんだ！ああ、くそ・・・なんでっ！なんで！！」

「まだ死んだって決まったわけじゃないですよ。さがしましょう。」

男は僕に掴みかかっていいました。

「お願いだ！俺を殺してくれ！！カナがない世界なんている意味

がない！！」そして、僕はさっきの女の子の時のように聞いた。

彼は、いいから殺してくれという。

僕は木にロープをくくりつけて、彼に言った。

「どうぞ。最後にきめるのはあなたです。」

彼はしばらく、そこにたちつくして――。

とうとう登りきったんだ。

長い長い道のりだった。

振り返ると、赤い赤い太陽が、僕に目一杯燈のヒカ리를浴びせてきた。

僕は思わず、呟いた。

「うわあ。綺麗だなあ。」

どうして人は間違ってしまうんだろう。
簡単に、命を無くそうとするんだろう。
後で後悔するような事をするんだろう。

あんなに綺麗に、太陽が、
「生きる！」と言っているのに。

「まあ、別にいつか。」

僕は世界で一番美しい太陽を背に、もときた道を下っていった。

（後書き）

いかがでしたか？ながながとわけのわからない文を読んでいただき、あらがとうございます。さて、三作目となりましたワールドシリーズ。まだまだ続けていきます。また読んでください。それでは、また後ほど

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0707c/>

WoRLd is BeqTiFuL ~ 世界は美しくないことない~

2010年12月3日15時10分発行